令和2年度岡山県地方独立行政法人評価委員会（第3回）の議事録

1　日　　時　　令和2年7月29日（水）15：00～16：15

2　場　　所　　県庁3階　第2会議室

3　出席委員　　萩原委員長、秋山委員、小田委員、清水委員、桑原委員

4　議　　事

（1）令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果

【要　旨】

4　議　　事

（1）令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果

・岡山県より説明

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
（小田委員） 総務省において、地方公共団体における内部統制に関する研究会が開かれており、その中で、リスク評価について述べられている。一般企業と独立行政法人との比較もされている。独立行政法人は、利潤を目標にはできないが、業務運営の効率化やコンプライアンスに関する事項については、一般企業と同じである。ただ、目標を設定する時に、安易な目標を設定すると、簡単に達成してしまうというのがリスクになってしまう。安易な目標設定とならないように注意してほしいと思っているが、こうした観点からみて、項目25番、26番、32番、41番など、目標の設定が安易になっていないかとの懸念がある。	（学長） 目標設定をどうするかは、難しいところがあると思っている。もちろん、安易なことはしたくないし、背伸びして届くかなというくらいの設定がいいのではないかと思っている。具体的にどのような目標設定がよいのか、委員のアドバイスもいただけたらと思っている。
（小田委員） 目標の設定が、前と同じというものもある。	（学長） 実際に目標を設定するにあたり、現在の社会情勢をふまえると、維持することも難しいことがわかっている項目もあり、しかし目標を下げるわけにはいかず、大学としてジレンマを抱えているところはある。
（萩原委員長） 教育という崇高なものであり、企業経営と同じではないし、新型コロナウイルスの影響もあり、目標実現が難しいところもある。努力は必要だが、今は、質を高めたり、内部体制を固める時期かなとも思っている。	―
（萩原委員長） 今年度はコロナの影響を受け、なにかと取組に制約を受けることとなり、来年度の評価は厳しいものになることが予想される。	（学長） 成果指標というものを掲げているので、この指標に縛られてしまうのは理解しているが、そこに至るプロセスも評価してほしいとも思っている。その意味で、中期計画での目標設定はまずかったのかとも思っている。
（萩原委員長） 設定した目標は修正できないのか。	（総務学事課長） 計画の修正は絶対できないというものではない。 しかし、評定が2であるものを、さらに目標を上げるのは難しいし、教職員のモチベーションも下がってしまう。評定4のものについて、目標をさらに上げるというのは考える余地はあると思う。
（清水委員） コロナの影響を受けたことも、実績のプロセス部分として書けばいいのではないか。	―

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
（萩原委員長） 来年の評価の時に反映させてください。	（学長） そうします。
（秋山委員） 全体の評価としては、これでいいと思う。国家試験の合格率など、分かりやすい指標もあるが、アウトカムのみならず、その過程・取組も評価できるものになればよいと思う。	―
（桑原委員） 評定が「2」となっているのは、数値目標があり、その目標に達していないから「2」となっているが、目標達成に向けた努力はしている。しかし、成果指標そのものが評価対象になってしまっている。取組を含めて評価するようにしたらよいのではないか。また、学生の満足度と言えば、どうしても数値になってしまうが、分かりやすいものではある。学生の反応も入れてみてはどうか。	（高橋副学長） 学生向けのアンケートを実施しており、学生生活の中での不満などを聞いており、授業評価もしている。また、どのようなことを身に付けたいかといったことも聞いている。
	（学長） 学生ファーストである。学生に満足してもらわないといけない。まだ検討段階のものであるが、さらに学外から各学部への教育研究評価も取り入れるべきかと考えており、その評価内容も踏まえて、本委員会にもお諮りしたいと考えている。
（小田委員） 成果指標に対して「2」の評価であっても、こうした取組をしたと言えるようなことがあれば「3」の評価をしてもいいのではないか。	（学長） 今回の評価では、あえてその手法を封印したところがある。あくまで成果指標に対してどうかということで評価した。
	（県） 成果指標については、評価時に大きなウエイトを占めることとなるが、その過程・努力を説明し、評価してもらう部分があってもいいのかとも思う。成果がすべてではないとのご指摘は、まさにその通りだと思う。
（萩原委員長） 学長の思いが反映された評価であると思う。大学としてどのように取り組んでいるのかをもっとアピールしながら、今後も運営してもらいたい。しかしながら、今後はコロナの影響を大きく受けることになるのが心配だ。	（学長） 今回いただいた意見は非常に参考になった。
	（事務局長） 次回以降の評価時の参考にしたい。 数値をだすとどうしてもその数値にひっぱられてしまうところがある。それを覆すエビデンスをこちらも丁寧に集めておかねばならない。
（清水委員） コロナの影響があり、いつも通りの成果をだすのは難しいが、文章で、その事情も残しておけばよいのではないか。	（学長） 学内からの報告があまり多くのことが書き込める様式になっておらず、エビデンスも多くないのが問題であったので、結果がでるまでの過程も分かるように、学内で集約する際の様式も一新した。
（萩原委員長） 評価結果の部分（資料1P3）に、コロナの影響について記載があるが、もう少し書き加えてみてもよいのではないか。	（各委員） 同感である。

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
（萩原委員長） 修正するにあたり、来週、予備日として4回目の委員会開催することもできるが、この部分のみの修正であり、修正案の作成は、委員長と県とで行い、各委員には書面で確認していただくこととしてよいか。	（各委員） 了解
（桑原委員） 評価の書き方として、「こうした努力をしたけど、結果は届かなかった」ため評価が「2」となったとなっているが、この記載を「結果は届かなかったが、こうした取組をした」というように書き換えるだけでも、印象は変わるがどうか。	（学長） 我々が受け止めたことを現場に伝えていくと段階で、だんだんと危機感が薄れてしまうものだと思っている。その意味では、厳しい書き方でよいと思うし、このままでよいのではないか。
（萩原委員長） 学長の思いを大事にしたい。大学のトップが代わったので、運営方法も変わっていいのではないかと思っている。本日は、各委員からの大学へのエールだと思っていただきたい。	（学長） ありがとうございます。